

令和5年度(2023年度)施政方針

「なんだかんだ言っても、
やっぱり町田が一番」
と思えるまちづくりへ

町田市長 石阪丈一

令和5年(2023年)第1回市議会定例会が開会され、石阪市長は2月22日の本会議で施政方針を表明しました。

ここでは、その概要を掲載します。全文は市HPでご覧いただけます。

問企画政策課☎724・2103

2023年度の市政運営の視点

新型コロナウイルスについて、国は「5類感染症」の方針を決定し、日常生活を取り戻すための新たなフェーズを迎えています。原油価格の高騰等による急激な物価の上昇は、市民生活に大きな影を落としており、地域のニーズや状況を的確に捉えていかなければならないと認識しています。

国内では、少子化対策は喫緊の課題です。国は、少子化に歯止めをかけるべく、こども家庭庁を創設し、省庁を横断して政策や取り組みを推進しようとしています。

町田市では、昨年「まちだ未来づくりビジョン2040」がスタートし、これまでの子どもにやさしいまちづくりの取り組みの姿勢を継承しながら、子どもの視点でまちづくりを推進しています。2022年の年少人口の転入超過数は、政令指定都市を除いて全国第1位に輝き、子育て世帯に選ばれています。しかし、子どもは年々減少傾向にあり、将来にわたって持続可能なまちであり続けるためにも、子どもを産み育てたい人たちの希望が叶えられるようなまちづくりに果敢に取り組むとともに、その輪を広げていかなければならないと考えています。

先行きの見えない社会状況が続く中でも、未来を見据えた的確な選択と効果的な投資を実行するとともに、一段上の行政サービスを提供し、市民の皆様の生活の質を向上させ、まちを活性化させていく必要があります。

市民の皆様と共に知恵と力を合わせてまちづくりを進め、なんだかんだ言っても、やっぱり町田が一番、と思えるまちづくりに取り組んでいきます。

- 2023年度の主要な施策 -

「まちだ未来づくりビジョン2040」に掲げる3つの「なりたいまちの姿」と「行政経営の姿」ごとに紹介します。

なりたいまちの姿

●ここでの成長がカタチになるまち

- ・「(仮称)子どもにやさしいまち条例」を制定
 - 2024年1月の制定を目指し、子どもたちのことを考え、大人の責任を明確に。
- ・「まちだ若者大作戦」の実施
 - 子どもの「やりたい」を実現する機会をつくり、更なる子どもの参画へ。
- ・児童相談所の市内設置に向けた都との協議
 - (仮称)子ども・子育てサポート等複合施設への児童相談所機能の設置を。
- ・小山田地区に市内7か所目の子どもクラブを開設
 - 子どもの居場所が充実し、子育て親子の満足感や安心感に。
- ・「まちだの新たな学校づくり」の推進
 - 未来の子どもたちのために教育環境を整えるとともに、教員が教育活動に専念できる環境に。
- ・中学校給食センターの建設工事の着手
 - “心身ともに健やかに育つ”ために、中学生全員に温かい給食を。

●わたしの“ココチよさ”がかなうまち

- ・多摩都市モノレール延伸に伴う町田駅周辺の整備
 - 駅周辺の開発を進め、中心市街地一体を回遊しながら楽しめる空間づくりに。
- ・芹ヶ谷公園“芸術の杜”内の(仮称)国際工芸美術館の整備
 - 多様なアートカルチャーや豊かな自然を学び楽しむことができる、町田市を象徴する公園へ。
- ・「忠生スポーツ公園」の整備
 - 池の辺地区が9月に先行開園し、さまざまな世代が憩い、体力づくりもできる新たな賑わいのスポットに。
- ・「(仮称)町田木曾山崎パラアリーナ」の整備
 - 誰にとっても使いやすい健康づくりの拠点と、パラスポーツを身近に感じられるような体育館に。

●誰もがホッとできるまち

- ・パートナーシップ宣誓制度の導入、(仮称)障がい者差別解消条例の制定の検討
 - すべての人が、互いに尊重し、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現へ。
- ・地域福祉コーディネーターを市内に順次配置
 - 2023年度中に鶴川地区に2拠点目を開設し、福祉の困りごとの相談支援体制の強化へ。
- ・小山田エリアの交流回遊拠点の整備に向けた基本構想の策定
 - 来訪した方々と地域住民との交流や農との触れ合いなど、里山を身近に感じ、楽しむことができる拠点に。
- ・ポータルサイトやSNS等を活用した防災知識の習得
 - 自助・共助が最大限に発揮され、まち全体の防災力が高まった災害に強い安心できるまちへ。

行政経営の姿

●みんなの“なりたい”がかなうまち

- ・共創による地域社会づくりの推進
 - 地域の「やりたい」を叶え続けるため、地域活動を土台からサポートし、誰にとっても暮らしやすい地域社会の創出へ。
- ・行政のデジタル化の推進
 - 行政手続きのDX(デジタルトランスフォーメーション)を推し進め、誰もが豊かさを実感できるデジタル社会の実現へ。
- ・市役所の組織力の向上
 - 中核市との自治体間比較を通じて、更なる市のポテンシャルアップへ。
- ・公共施設の再編の推進
 - (仮称)子ども・子育てサポート等複合施設の整備を始めとして、未来の世代にも公共の利益をもたらす持続的な行政経営の実現へ。

むすびに

2023年度は、「まちだ未来づくりビジョン2040」と「町田市5ヵ年計画22-26」の2年目を迎えます。

市長就任から私が最も大切にしてきた「すべての世代の方々に生活の質の向上を実感していただく」こと、「市民目線で行政経営改革を進める」こと、この2つの志を常に持って市政運営に臨んでまいります。

また、「子どもにやさしいまち」の実現のために、市民や地域企業の皆様が、互いに支え合い、それぞれの持ち場で具体的に活動している、そんなまちを目指し、誰もが「町田に住んでよかった」「町田で育ってよかった」と思えるまちに発展させてまいります。